

開設年度		開講部局	
2010		共通教育	
科目名			
持続可能な開発と東洋の環境思想			
英語科目名			
前後期		履修期	開講区分
後期		2期	
科目形態	単位数	大分類(科目)	中分類(分野)
講義	2	教養科目	分野1
受講学部学科			
全			
担当教員		担当教員所属	
萩原 豪		稲盛アカデミー	
連絡先(TEL)		連絡先(MAIL)	
099-285-3757		k6219828@kadai.jp	
オフィスアワー(授業時間外の対応)			
【オフィスアワー】毎週木曜日3時限目 オフィスアワーでの対応については、できるだけ事前にメールでアポイントをとるようにしてください(ダブルブッキングを避けるため)。			
共同担当教員			
キーワード1		キーワード2	
視野・判断力・探求能力			
授業概要(目的・内容・方法)			
<p>1987年、「持続可能な開発」(Sustainable Development)という考え方が世に出てきました。これ以降、現在まで地球環境と開発を巡る問題には「持続可能な開発」という考え方をを用いることが多くあります。しかし、この言葉の共通認識はあるものの、その定義はいまだ定まっていないのが現状です。</p> <p>他方、東洋社会には伝統的は「人間は自然との関係性の中で生きている」という「持続可能な開発」に深く関連する環境観が存在します。東洋社会では、人間の利益を絶対的に考えるのではなく、自然生命の固有価値のなかに人間の生存を見出してきました。日本における自然崇拜も、この事例のひとつと言えるでしょう。</p> <p>今後、「持続可能な社会」の構築を実現するためには、さまざまな主体(個人・政府・自治体・地域社会・企業・民間等々)が協力し合わなければなりません。本講義では、日本(東洋)においてESDを実践していく上で必要不可欠な環境思想・倫理について、「持続可能な開発」との関係性に焦点を当て、身近な例を取り上げながら受講生と一緒に考えていきます。</p>			
学習目標			
<p>受講生が「自ら問題を発見・考察・分析・整理・発表する」という一連の流れを通じ、社会人としての基礎技術を習得することを最終目標としています。この講義を通じて、多角的な視点から事象を見て考察する経験をし、受講生が将来、実社会での情報発信・情報共有に活かせるようにしていきたいと思っておりますので、受講生には積極的な参加(単なる出席ではなく発言すること)を求めます。なお、情報発信の訓練として、課題等(A4用紙1枚程度)を最低2回提出してもらいます。</p>			
授業計画(15回に分け、回数、授業内容、自学自習等)			
<p>第1回目の授業ではガイダンスを行います。その際、履修希望者の関心がどのようなところにあるのかを確認していきます。その後の流れは以下のように考えていますが、受講生の関心や時事的なテーマなども踏まえて、その都度、柔軟に対応していきます。授業内では適宜グループワークを行いますので、受講生同士が授業時間以外に連絡を取り合う必要が出てきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス</li> <li>・「持続可能な開発」と「持続可能な社会」とは何か</li> <li>・環境思想・倫理の系譜</li> <li>・東洋の環境思想・倫理</li> <li>・ケーススタディ(自然環境と開発、電源地と消費地、科学技術と環境)</li> <li>・全体総括</li> </ul>			

受講要件	成績の評価基準
<p>本講義のテーマに関心をもっていること。できる限り、受講生の知的好奇心に対する便宜を図っていきたいと思います。いろいろな「モノ」を自分の眼で見たい、という好奇心旺盛な学生諸君の参加を待っています。</p>	<p>授業態度30%、課題等提出物30%、期末試験40%で総合的に判断します。ただし、出席が総授業数の3分の2未満の場合、期末試験を受験しない場合は評価対象外とします。 (受講人数によっては期末試験ではなく、期末レポートに変更する場合があります)</p>
教科書	参考書
<p>教科書は使用しません。必要な資料は毎回の授業で配布します。 課題作成のために必要な書籍は別に指定します。</p>	<p>尾関周二・武田一博・亀山純生『環境思想キーワード』青木書店、2005年。 加藤尚武『環境倫理学のすすめ』(丸善ライブラリー)丸善、1991年。 加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』(丸善ライブラリー)丸善、2005年。  書籍・新聞・雑誌・マンガ・映画・webなど、日常生活に関することを幅広く取り上げていきます。</p>
その他	
<p>授業運営の関係から、受講者数は40名以内に制限します。グループワークを中心とするので、履修希望者は必ず第1回目の授業に出席してください。履修登録人数が多い場合には抽選とします。</p> <p>基本的に質問事項は授業後、もしくはメールにて受け付けます。または、学内で見つけたら、その場で声をかけてみてください。時間がある場合にはその場で対応します。オフィスアワーでの対応については、できるだけ事前にメールでアポイントをとるようにしてください。</p>	